

A-67 成熟白ネズミによるたん白質とV. B₁
との関係 (第3報)

同志社女大家政 久次米哲子
○松下紀美子
阿部登茂子

1. 前報の低たん白食, 低V. B₁食における生体の影響に引続き, 今回は両者を組み合わせ相互の影響について検討した。

2. 成熟白ネズミをI群(対照群), II群(低B₁群), III群(低たん白群), IV群(低たん白, 低B₁群)の4種に分け, 飼育期間は3週間とし, 期間中体重測定を行なった。飼育後, 肝臓心臓, 腎臓および血液等のたん白質及びV. B₁の定量を行なった。

3. 体重はI群では直線的に増加し, II, III群は試験食開始5日目頃および2日目頃より横ばい状態を呈し, その後徐々に下降し, IV群は試験食開始と同時に下降しはじめ, 10日目頃からは急激になった。I, II群とIII, IV群とでは体重曲線の差異が顕著に表われた。即ちたん白欠乏の方がB₁欠乏より体重減少が顕著に表われた。B₁欠乏症状は低B₁のみの時よりも低たん白食を伴っている場合の方が顕著に発現し, B₁欠乏を促進する傾向が認められた。臓器重量は肝臓において4群間に差がみられたが, 腎臓, 心臓では余り差はみられなかった。たん白欠乏の方が臓器重量に与える影響は大であった。たん白濃度は何れの臓器, 血液ともI, II群が高くIII, IV群が低かった。たん白含量は肝臓が最も大で腎臓, 心臓の順であった。B₁濃度は肝臓, 心臓, 腎臓で高く, 血液では極めて低かった。B₁濃度及び含量は摂取B₁量の影響を受け, I, III群が高く, II, IV群が低かった。以上よりた